令和5年度　「魅力ある学校づくり」能美市立浜小学校　後期学校評価

項目		目標達成に向けた方策	主担当	【評価指標】	【達成度判断基準】	最終評価	取組の成果・課題および今後に向けて	評価委員会より
1	令和の日本型教育の実現をめざす組織体制づくり	**①授業改革の実現をめざす体制づくり**	主幹	【学校教職員アンケート　1　】 校長ビジョンの具現化のために、今年度の重点に沿った活動や取組を考えたり、児童とめあてを確認しながら実施したりしている。	【教員】 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A	各取組のねらいが学校ビジョンに掲げるつけたい資質・能力に繋がっているか確認しながら計画・実施してきた。また、学期はじめに、全校集会を開き、めあてやめざす児童の姿を児童とも共有することができた。 今年度の「わくわく」「にこにこ」「きびきび」の教育全体計画（ロードマップ）や取組を検証し、改善を図り、スパイラルアップした形で次年度につなげたい。	・学校全体で個に応じたきめ細かな指導やそれぞれの子供が選ぶことができる授業に取り組んでいて、その成果が子供の様子から見えている。 ・学校には非常に多くの業務があるが、どれも必要なものばかりだと感じる。コドモンやICTを使って残業や多忙化が改善されていくことは子どもにとってよいこととなる。 勤務時間外に面談や会合が行われているが、子ども達が充実した教育を受けることができるよう、地域にも協力を求めながら多忙化改善を進めてほしい。
		②働き方改革	教頭	【学校教職員アンケート　2　】 ・時間管理や環境整備、業務の平準化を意識し、教育効果を上げる工夫をしている。	【教員】 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C	年間計画に基づいた教育課程を計画的、組織的に実践することができた。この点においては、業務のスリム化および平準化につながったと考える。その一方で、突発的な事案（熱中症、地震、大雪、台風、不審者など）に対応するため、臨時の打ち合わせを多数開催した。打ち合わせは必要であったと考えるが、時間がかかったことは否めない。今年度の経験をマニュアル化し不測の事態に備えておくことで、打ち合わせ等の回数を削減したいと考える。	
		③GIGAスクール構想の推進	Gリーダー	【能美市小中学生質問紙調査　10】 ・授業では、PC端末などのコンピュータを使った学習活動をよく行っていると思う。	【教員・児童】 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B	教員も児童もchromebookを積極的に使う姿が見られている。授業中協働的な学びのために使っている姿が多く見られた。chromebookを使っていく上で、デジタルシティズンシップ教育についても指導をしていく必要があると考える。GIGAワークbookを使ってこれからも指導し続けていきたい。	
		今年度の重点 **楽しく学び　のばそう「心の根っこ」**	主幹	【学校児童アンケート　1・2　】 ・自分には良いところがあると思う。 ・自分は学校・学級や友達の役に立っていると感じることがある。	【児童】 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B	児童アンケート2項目とも、前期学校評価の結果より3～4%高くなった。学校全体として、子どもが学びの主体者となるように、授業のアップデートに努めてきた成果であると考える。 次年度も引き続き、児童が主役の授業づくりに心がけるとともに、生徒支援部や健康教育部と連携し、学校教育活動全体を通して、児童を褒める、認める場を意図的に増やしていきたい。	
2	確かな学力の育成	**①授業改善**	研究推進	【学校教職員アンケート　3　】 子供が学びの主体者となるために、ICTを用いた個別最適な学びと協働的な学びの理解に努め、学ぶ意義がわかる授業やPBL型授業づくりに主体的に取り組んでいる。	【教員】 A:95%以上 B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	B	前期評価から、6.7%伸び、ランクが向上した。 後期は、様々な研修を通して学んだことを、日々の授業で実践していくことができた。また、計画訪問での公開授業、浜GIGAデー、学年での研究授業など研究推進の取組についても学校全体として組織的に取り組むことができた。	・自己肯定感は人から言われて実感する。ほめて伸ばしてやることが大切だと思う。教師は多くの子を見ているが、授業でこそ、声をかけ、認めてやることが効果的だと思う。 ・学習サポーターをしたことで、1年生の繰り上がり・繰り下がりの計算や2年生の九九の定着ができていないことに課題を感じている。家庭での練習が不足している児童もいる。低学年は聞いてくれる人がいると意欲が高まるので、長期的な支援があってよい。わからない子をなくしてやりたいので、遠慮なく学習ボランティアに依頼すればよいのではないか。 ・教師の本分は子どもに確かな学力をつけることだと思う。そのために、学校運営協議会もサポーターやボランティア等で力になれることはないかと考え支援している。学力の向上に力を注ぐことを大切にしてほしい。
		②基礎・基本となる学力の定着	研究推進	【単元末テスト】 算数の単元末テストにおいて、学年平均が90%以上になる。	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	年間を通して「朝学習」「チャレンジタイム」「浜っ子チャレンジ」「家庭学習がんばり週間」を全校で共通認識し取り組むことで基礎基本の確実な定着を図ってきた。地道ではあるが全職員が同じベクトルで実践を積み重ね、ほとんどの学年が取組の達成率が80%以上となっている。これからも、単元末テストごとに課題を検証しその後の取り組みを考え実施していくことで基礎基本の定着を図っていきたい。	
		②家庭学習習慣の確立	研究推進	【家庭学習頑張り週間アンケート】 ・家庭学習を毎日提出している。 ・目標時間を達成する。 【学校児童アンケート　12　】 ・ゲームやネット・テレビの使用および視聴時間を守る。	【児童】 A:95%以上 B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	C	改善に向けたデジタル化は、対応しにくい学年もあることから実現できなかった。数値上は大きな変化がない。各家庭の方針もまちまちであり、提出・目標時間達成ができる児童についても固定化が見られる。家庭が主体的に取組める内容へのシフトおよび結果の「見える化」を検討していくべきと考える。	
		≪みずから学ぶ子≫　わくわく（主体性） 知・技　　基礎基本となる力を身につける 思判表　　思いや考えを持ち伝え合う 人間性　　学んだことを使って追求する	研究推進	【学校児童アンケート　3・4・5　】 ・授業にすすんで取り組んでいる。 ・勉強がわかるように努力している。 ・学校生活を楽しくしようと思っている。	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	児童自らが学び方を選択し、友達と関わりながら思考する場面を増やすことで、主体的に学習に参加する場面は確実に増えている。主体性を育てるには、そこに教師の深い教材研究、適切な間接的指導が必要になってくると考える。 また、児童が自分の学び方を振り返る場を大切にし、そこで教師が励ましたり、価値付けたりして関わることで児童の学びの質や意識をさらに高めていきたい。	
3	豊かな人間性の育成	**①自己肯定感の育成**	生徒支援	【学校教職員アンケート　4　】 授業や様々な行事・活動において、「わくわく・にこにこ・きびきび」を意識させ、児童の成長しようとする意欲、主体性の伸長を目指し、自己評価・相互評価を通し自己肯定感を高めている。	【教員】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	中間評価に引き続き、教職員アンケートの結果をみると「児童の自己肯定感を高めようとする」の項目について教職員の意識が高かった。全校集会で提起された「めざす授業像」について各クラスで話し合い、教師と児童が共通理解するという取組の結果と考えられる。運動会や各行事で、めあてに対するふり返りを行ったことで、児童の居場所づくりや自己有用感アップにつながったことも確認できた。今後も、児童が主体となって活動し、相互に認め合う場を設けていきたい。	・上手な挨拶をする子が増えた。自分から挨拶をしてくれるようになった。町のイベントでも子供たちは履物をそろえるようになり、教育の効果を感じている。 ・「自分は役に立っている」と子どもが感じることは難しい。他人からいわれると気づかされ、自信になる。自己肯定感を高めてやるためにも周りの人の気持ちを伝えてやることが大切ではないか。
		②積極的な生徒指導	生徒支援	【学校教職員アンケート　5　】 「生徒指導の4視点を生かす言葉かけ」を授業の中で意図的に使うようにしている。	【教員】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	教師に「生徒指導の4視点を生かす言葉かけ」を授業の中で意図的に使おうとする意識が高まっている。9月の授業見合い週間で、学級では全体的に安心して授業に取り組めていることが伺われた。また「児童のよい姿」や「参考にしたい教師の言動」などを確認し、2学期のよいスタートにつなげられた。今後、授業や特別活動の中で、生徒指導の4視点を活かされる場づくりのバリエーションを増やし、ねらいをもって実践していくことが求められる。	
		≪真心でかかわる子≫　にこにこ（協調性） 知・技　　基本的な社会性を身につける 思判表　　時と場に応じて行動する 人間性　　仲間と共に校風づくりに励む	生徒支援	【学校児童アンケート　6・7・8　】 ・相手のことを考えた優しい言葉を使っている ・人が困っているときは、進んで助けている ・自分からすすんで挨拶をしている	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	どのアンケート結果も8割から9割近くの評価を得た。3学期の生活目標を「支えてくれた人に感謝の気持ちを表そう」とし、授業中や各行事で3つの姿を児童と共有し児童の自己有用感を高めることができた①相手のことを考えた優しい言葉、プラス言葉、認める言葉を使う。②「わからない人とわかる人の役割」「話す聞く」「実行委員と参加者」それぞれの立場で協力する。③相手を大切にする第一歩として「あかるく」「いつでも」「さきに」「つづけて」あいさつする。友達や学校のために働く意識を育て、行動する心地よさを味わわせていきたい。	
4	健やかな心身の育成	**①体力・運動能力の向上**	健康教育	【スポチャレ】 スポチャレの取組を継続的に行う。	【学級】 記録賞（トロフィー）を獲得したクラス A：全クラス B：15クラス以上 C：10クラス以上 D：10クラス未満	B	全クラスが2学期中にスポチャレの記録登録をすることができた。標準記録を達成しているクラスは15クラスとなり、取り組みの成果が見られた。 クラスによって取り組みの温度差が見られたことが課題であった。児童委員会を活用した呼びかけや取り組みの紹介、動画などで児童が進んで取り組める環境を作りたい。 他市町の学校（クラス）と競い合える機会として、クラスでめあてを持ち、協力して記録に挑む態度を育てたい。	・中学生になり、めざす自分が明確になってくることで優先順位が変わる。そうなるとゲーム等の使用時間についてもセルフコントロールができるようになるのではないか。 ・地域で指導をしている児童にゲームのことを聞くと、親の帰りをゲームをしながら待っている場合があった。 ・ゲーム等との付き合い方については、家庭の状況や親の就労時間が影響していることもある。子どもが対面でぬくもりのあるふれあいにより、なりたい自分を共に語りあえるよう、大人が関わっていくことも大切である。
		②健康教育の充実	健康教育	【保護者アンケート　6　】 ・ご家庭では、テレビやゲーム、SNS等について利用ルールを決めて実行している。	【保護者】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C	若干の改善が見られたが、家庭の教育方針に頼るところが大きい。設問を①ルールを決めているかどうか②守れているかどうか、に分けて分析することで改善策の検討を進める。また、2学期に実施できなかった「デジタルデトックス」については、コドモンを通じて保護者からのフィードバックを集められる形で行う。	
		≪よりよく生きる子≫　きびきび（革新性） 知・技　　望ましい生活習慣を身につける 思判表　　目標を立てて、粘り強く取り組む 人間性　　健康安全に生活する	健康教育	【学校児童アンケート　10・11・12・13　】 ・時間を守って登校している ・体育の授業ではめあてをもって一生懸命取り組んでいる ・家庭でテレビやゲームのルールを決めて守っている。 ・ゲームやSNS、ネットでは、正しい付き合い方ができている。	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	朝の登校をはじめ授業の始まり終わりを児童一人一人が意識し自分から時計を見て行動できるようになった。これは、2学期から行っている「ノーチャイム」の取組も大きく影響していると思われる。運動に関しては、コロナによる制限が少なくなり様々な体育の取組ができるようになり、体を動かすことの楽しさを感じることができるようになった。情報モラルに関しては、デジタルシティズンシップの学習を通して、正しい付き合い方ができていると答える児童がほとんどである。しかし、家庭でのルール作りや付き合い方は、守られていないとする児童が少なくない。今後は家庭と学校が連携して、ルール作りやそれを守るための手立てといった取組を共有していく必要がある。	
5	家庭・地域との連携	**①コミュニティースクール事業の推進**	教頭	【保護者アンケート　3　】 PTA活動や各種ボランティアや見守り等に参加するなど、安心安全な学校づくりに協力している。	【保護者】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C	地域の方々には、日々の登下校の見守りや多くの学習支援をしていただいている。今年度もたくさんのご支援をいただき、児童の安全・安心な学校生活の実現にご協力をいただいた。また、保護者の方々には、地域見守りパトロール【年間】、あいさつデーの取組【年間】、早朝奉仕作業【6・9月】、プール監視ボランティア【6・7月】に参加していただいた。保護者の方々の参画意識は76.5%と80%に満たなかったので、ボランティア活動の見直しや参加呼びかけについて、PTA役員会で検討を図り、より多くの保護者の方々に参加を促していきたい。今後も積極的に保護者、地域と連携を図りながら、安心安全な学校づくりをめざしていきたいと考える。	・サポーターやボランティアの活動を続けることで、子供たちとの関係ができ、深まっている。短い時間に他愛のない会話をすることが子ども理解に繋がっている。自信のなさそうな子にも話すことで、大人もそんなに立派じゃない、あなたも大丈夫だと伝えてやることができている。 ・ほっとルームを行ったことで、これまで話したことのなかった子と触れ合うことができた。子供たちもほっとルームを楽しみに待っていてくれる。安心できたり、個性を認める場所や人が学校の中に増えたりすることはよいことである。 ・町探検で地域の物や人を知ることはよいことである。子供時代に大切にされた子供は、大きくなった時に周囲の人を助けたり、地域を大切にしたりできる。自立した人を育てる関りをこれからも続けていくとよい。
		②ふるさと能美市を愛する心と態度の育成	教頭	【学校教職員アンケート　6　】 総合的な学習の時間や道徳および行事等における学びや体験活動の充実を図り、ふるさと能美市を愛する心と態度を養う学習活動の推進に努める。	【教員】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	3年「能美市のすてき発見」4年「未来の能美市について考えよう」5年「地域の環境」6年「働く人から学び、これからの自分に生かそう」を総合的な学習のテーマに設定し、ふるさと能美市を愛する心と態度を養う活動を行ってきた。感染症対策が緩和されたことにより、昨年度に比べて、ゲストティーチャーを招聘したり体験活動を充実させたりすることができた。今後も、地域の方々と関わる探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、地域の特徴やよさに気づかせていきたい。	
		ふるさと能美市を愛する子	教頭	【学校児童アンケート　14　】 地域のことを調べたり学んだりして、能美市や根上のことがわかったり良さを発見できたりした。	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	3年生以上の各学年において、総合的な学習の時間を中心にふるさとに関する学習活動を年間計画に位置付けて行った。児童は地域の方からお話を聞いたり、活動を体験したりすることで、能美市や根上の伝統とよさについて学ぶことができた。また、3年生、6年生がのみふるさとミュージアムの見学を行ったが、能美市の歴史を学ぶよい機会となった。 今後はさらに、児童を主体とした探求活動を推進し、ふるさと能美市を愛する心と態度を養成していきたいと考える。	